

# 光と緑の風通信

発行/2013年2月25日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 Tel.024-547-1111 (代)

## 卒業生へ贈る言葉

### ご卒業おめでとうございます

看護学研究科長 結城 美智子

いよいよ旅立ちの時です。一生の時間単位でみれば大学で過ごした時間は一瞬ですが、過ぎてみれば大学での思い出は皆さんそれぞれにとって尊いはず。そしていま、将来の夢を描き、希望に満ちていることでしょう。ぜひご自分らしく飛躍してほしいと思います。

皆さんは看護の専門職者としてこれからも絶えず学び続けていくことになります。大学生活から開放されたと思ったのも束の間、やっとスタートラインに着いたのです。学ぶことについて、論語の冒頭には「学んで時にこれを習う、亦たよろこばしからずや」とあります。意味を紐解くと、人は学びたいという好奇心がある。その好奇心によって外部から知識を取り入れても、その段階では自分自身のものになっておらず、時にその取り入れたものに振り回されて、自分自身を譲り渡すことになっている。それが修練を重ねている内に、あるときふと、しっかりと自分のものになる瞬間が訪れ、学ぶ者は学んだことに振り回されるのをやめて、主体性を回復し、「習う」ことを実感できるというのです。

看護の分野では新しい知識が次から次へとあふれています。自分を見失わず、知識にうもれることなく、主体的に深く実感できる看護の専門性を追求してほしいと期待しています。これからの道程は長く、時に困難もあるかもしれませんが、看護が実践科学であることを心に刻み、夢に向かって一瞬一瞬を大切に過ごして下さい。

(ゆうき みちこ)

### 夢の実現に 向かって

看護学部長 鈴木 順造



ご卒業おめでとうございます。皆さんの輝かしい前途を祝し、心からお祝いを申し上げます。

皆さんが、自信を持って、さらに将来に希望をいただいて、自分が選んだ道を進んでいくということは大変素晴らしいことです。近年の医療の進歩は著しいものがあり、今、看護職者に求められているのは、単なる医療の介助のみではなく、入院・在宅患者の日常生活の質の向上を高めることや、地域社会においても病気の予防とその後のケアまでも指導できる人材です。

本学で学んだ知識・技術を使いこなし、どのような困難に遭遇しても安易に逃げ道を探すのではなく、自分の英知を働かせて切り抜け、自分の力を信じて未来の可能性に向け果敢に挑戦し続けてください。そして、常に慈しむ心を忘れず、高く逞しく飛び続けてください。

We never know how high we are  
Till we are called to rise;  
And then, if we are true to plan,  
Our statures touch the skies—  
(Emily Dickinsonの詩の一節)

近い将来、大きく成長した皆さんの在り様を楽しみにしております。大いに期待してやみません。皆さんに、沢山の夢を託しながら、幸多かれと心からお祈りしております。

(すずき じゅんぞう)



贈る言葉

### 卒業生から在校生へ

#### きらきらした自分を目指して

4年生 守家 詩織



努力。4年前、小さい頃から夢であった助産師になるために自分なりの志を持つてこの大学に入学しました。月日が経つのはあっという間で、なりたい自分になるとうちに大学生活が終わろうとしている。在校生の皆さんに卒業生として

#### 先生や仲間へ感謝

大学院2年 安中 みい子

長期履修+大震災の1年を加えた4年間、本当にお世話になりました。月並みですが、辛いこともあり、楽しかったこともあり、あつという間の4年間でした。私は大学院で2回泣きました。1回目は入学したのときで、プライベートと仕事と学業が追いつかず辛かったときに、先生から「大変なことはわかっていて(大学院を)選択したのですよね」と指導された時と、2回目は修論を書いても書いても上手くいかなかった時です。自分の甘

伝えたいことは、とにかく必死になつて頑張れることにまつすぐにいて欲しいということ。どうせ自分には無理だからと始める前から諦めるのはとても簡単です。自分がやりたいこと、こんな風になりたいという気持ちを大事にして自分の限界を決めずに大学生活を送って欲しいと思います。頑張ったことはたとえ目標に届かなかつたとしても自信に繋がります。結果ももちろん大切ですが、頑張った自分を認めてあげられるのも人生のポイントだと思います。一日一日を大切に生きようと思つても、どこかでガス欠を起こしてたらだら過ぐす日が出てくるものです。だからこそ何事にもメリハリをつけて「なりたい自分」になるために努力し続けて欲しいと思います。お互い目標は違いますが、何かに一生懸命なきららした自分であられるように頑張りますよ！

(もりいえ しおり)

さが身にしみて、悔しくて思わず涙がこぼれました。

皆さんも、これから先、とても大変な思いをされるかもしれませんが、楽しいことだけで済むはずがないのが大学院だと思えます。けれど、辛かつたときの生方や先輩の励まし、仲間の存在に救われ、何とか乗り切ることができました。辛いことがあつてこそ学びが深まった気がします。論文も重要、講義の学びも重要。でも、皆さんには人間との得がたい繋がりを一番大切にしてください。良いと思えます。ここで学ぶことができ、良かったと思えます。本当にありがとうございます。

(あんなか みいこ)

### 卒業生から在校生へ

看護学部編入4年 佐藤 紀子

編入4年の佐藤紀子です。今年度無事卒業を迎えることができました。卒業生から在校生へ、ということでは私から在校生の皆さんにふたつの事を伝えたいと思います。ひとつ、後悔するような大学生活を送らない。私は2年間の大学生活を過ごしました。2年という月日は思っていた以上にあつという間に過ぎました。もつと保健師の勉強に打ち込めばよかった、もつと友人と遊べばよかった、もつと真剣にレポートに取り組みばよかった、など後悔でいっぱい。後悔のないように何事も全力で取り組んでいってください。ふたつ、医療従事者になるということを自覚する。

私たちは卒業後、看護師、保健師、助産師などそれぞれ進む道は違いますが、医療従事者になります。医療従事者が関わっていくのは、人です。命と向き合っていく職業です。看護を勉強していくにあつて、身体的・精神的に辛いと感じることもあると思いますが、看護について勉強し、患者さんと関わることで命と向き合う責任や、医療従事者の卵として多くのことを学ぶことができます。辛さに負けず頑張つていってください。最後に、この2年間で本当にたくさんの学び、想い出・人とのつながりを得ることができました。私の大学生活を支えてくれた友人、両親、先生方に感謝を伝えたいです。ありがとう、ございました。

(さとう のりこ)

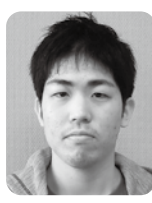


贈る言葉

### 在校生から卒業生へ

#### 卒業生へ

3年 吉田 健人



ご卒業おめでとうございます。卒業生の方々には大学生活の中でお世話になりました。大学での過ごし方やテスト勉強の仕方を教えて頂いたり、大学生活を楽しく過ごすことができるよう

#### ご卒業おめでとう ございます

大学院2年 服部 桜



2011年5月、東日本震災の影響で1ヵ月遅れの入学式。不安を抱え入学式に臨んだ私を大学院の先輩方は暖かく迎えて下さいました。その後も学生皆さんの心ぎしの高さに触れ、学

ぶ事の大切さと楽しさを再確認する事が出来ました。とは言つても

(はつとり さくら)

様々なアドバイスをして頂きました。特に印象に残っていることは、入学したての時に聞いて頂いた、新入生と在校生、先生方との交流会です。まだ、緊張が解けない私たちを優しく招いて頂いたおかげで緊張が解けました。

また、3年生の領域別実習が始まるにあつては、不安や緊張でいっぱいになった私たちに多くの励ましの言葉をかけて頂きました。卒業生が卒業してしまふのは寂しいですが、卒業生の方々に教えて頂いたことを活かし、それらを後輩に伝え、少しでも卒業生のような立派な最上級生となれるよう努力したいと思えます。最後に、今まで本当にお世話になりました。卒業してからもそれぞれの道で活躍されますことを祈りしています。(よしだ けん)

も私自身、久しぶりの座学は大変で、皆さんの後について行くだけで一杯でした。そんな私に同期生はさり気なくフオローの手を差し伸べてくれ、先輩方は適切なアドバイスをもつて導いて下さいました。私が働きながら学生生活を続けていられるのも、こうした支えがあつたからです。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

震災を乗り越えて卒業される皆さん、ご苦労も多かったと思えます。皆さんのひたむきに研究に取り組む姿は忘れずには出来ません。これからも大学院での学びを活かし、益々のご活躍を心より期待しております。



領域別看護学実習

### 精神看護学での学び

3年生 三瓶 真美

精神看護学実習は、保護室、閉鎖病棟など、初めて目にするものが多い領域であったこともあり、学びは多岐に渡っているが、その中でも特に学んだことは、様々な情報を統合して、さらに推察していくことで人間像を把握していくことと、傾聴の重要性である。

精神看護の領域では、その方の病識の有無や症状に対する受け止め方によっては、その方の訴えだけでは、本来の病状やその方が困難に感じていることを把握することができない。そのため過去の病状や生育史、人間関係などにも目を向け、その言動から読みとれることを推察していくことが重要であることを学んだ。また、入院している方々は孤独感を抱えていることが多かったが、その方々の苦しみや訴えに耳を傾けていくことだけでも、精神状態の安定につながったようであったため、傾聴の重要性にも改めて気づかされる実習であった。(さんべい まみ)



### 小児看護学実習における学び

領域別看護学実習

3年 橋本 美穂

私は今回の小児看護学実習において、急性肺炎で入院している1歳後半の女児、7歳後半の女児の2人を受け持たせていただき、個別性の理解の重要性を強く感じました。1歳後半の女児はSDOの測定を嫌がり、7歳後半の女児は服薬を嫌がる姿が見られました。このことから、同じ疾患であっても嫌がる検査や治療はその子の性別、年齢、発達段階、育ってきた環境、入院経験など様々な要因によって、一人一人全く異なるということを知ることができました。そのためその子が主体的に検査や治療に望めるよう、その子の特徴や背景、経過を捉え、個々に合わせて援助の方法を工夫し、アプローチの仕方を変化させることが重要であると考えます。個別性はどの領域においても重要だと思つので、全体像から個別性を理解できるように、この学びを生かしていきたいと思っています。(はしもと みほ)



領域別看護学実習

### 母性看護学実習で学んだこと

3年 佐藤 真奈美

母性看護学実習では、一人の女性が妊娠期を経て出産し、母親になっていく過程での心理的な変化や母親役割の獲得における授乳方法の確立過程などを見ることができた。その中で、対象が必ずしも疾患を有しているわけではないという特徴から、個別性や妊娠週数・産褥日数を考慮し、その人が元々持っている力を引き出し、さらに高めることでセルフケアできるような関わり方が重要となることを学んだ。特に、対象の頑張りを認める声かけをすることにより、対象が自分自身を肯定的に評価でき、さらに頑張りを継続することができることが分かった。また、帝王切開の見学を通して、命の誕生の瞬間に感動し、さらに、分娩後に母親とともに出産体験を振り返る関わりにより、母親の精神的疲労を軽減することの大切さを学ぶことができた。(さとう まなみ)



### 成人看護学実習を通しての学び

領域別看護学実習

3年 鈴木 利奈

成人看護学実習では周手術期の看護について多くのことを学びました。術後の患者さんの身体状態の変化は講義でも学んでいましたが、病棟実習を行い疾患や術式はもちろんですがその人のいままでの生活や習慣、性格、疾患に対する考えなどすべてが術後の経過に関係しているのだと学びました。そのため、患者さんが退院するまでの期間のなかで、その人を理解して個別性のある看護を行うことが重要であると思いました。わたしは今回、退院指導を行わせていただきました。退院後の患者さんの生活が手術を受けたことにより狭くつまらないものにならないようにするため様々な案を出して退院指導を行うことの大切さを学びました。看護師が患者さんと関われるのは入院中ですが個別性のある看護を行うことで退院後も別な形で関わり続けていけるのだと思えました。(すずき りな)



領域別看護学実習

### 老人看護学実習を通しての学び

3年 前田 理絵

高齢者を理解するためには身体状態だけでなく、心理・社会・文化的な側面など多面的な理解、その人の生活全体からの理解することが必要であり、その人の生活歴が長くそれらが複雑に絡み合っている健康状態に影響しているため、特に多面的な理解が重要ということを実習を通して実感することができました。対象の理解するためには情報を統合して吟味することが重要であり、様々な情報源を活用したり、「コミュニケーション」を工夫して必要な情報を引き出したりすることが重要であること、また、その人の置かれている環境をよく観察するということが対象の多面的理解をするにつながることが学ばれました。さらに、高齢者の対象を理解する上では人生史の把握も重要であり、そこから性格、価値を捉えて強みを生かした看護ケアを計画することができるということを学ぶことができました。これらのことは今後の実習にも活かすことの出来る学びであったことから、良い学びができたと感じました。(まえだ りえ)



### 看護管理学実習での学び

看護管理学実習

4年 上野 智奈美

看護管理学実習では、今までの領域別実習などとは異なり、看護における管理活動がどのようなものなのかという視点で見学をさせていただきました。それまでは管理活動は看護師長さんや看護部長さんなど、管理職と呼ばれる方々だけが行うもので、自分にはまだ縁遠いものという印象がありました。しかし、今回の実習を通して、看護管理はより良い看護を提供するという目標を達成するために不可欠なものであり、その活動にすべての看護師が高い意識をもって関わり方が重要であると学ぶことができました。来年度から看護師として働くこととなるので、卒業後も今回の実習での学びを生かし、1年目から看護管理ということを意識し、自分の行うべき管理活動を行いながら看護を提供していきたいと思つています。(うえの ちなみ)

## 最善の環境を考えて

厚生中央病院  
6期生 佐藤 ますみ

私は東京都目黒区にある「厚生中央病院」の7階南病棟(総合内科)で勤務しています。総合内科と言うと疾患的には肺炎や糖尿病の患者が多く、また緩和ケアを専門としている医師が入職したということもあり、化学治療や緩和を目的として入院される患者も増えてきました。

目黒区という場所は芸能人も多く住み、裕福な患者もいれば、ホームレスをし、現在は生活保護を受けている患者もいるなど、貧富の層が激しいと思います。その影響もあつてか、病棟には5万円の個室のお部屋があります。4床の病室と同じくらいの広さで、キッチン、冷蔵庫、ユニットバスもついています。そして病棟は、7階ということもあり、景色が良いです。そこから見える富士山は壮大で、病院に居ることを忘れさせてくれる瞬間でもあります。

内科で勤務していると、平均年齢は80歳を超えることは珍しくなく、寝たがりの患者や歩いても付き添っていかない転んでしまいかねない患者もいます。不穏でコール頻回、痰が多い患者の吸引、重症の患者のバイタル確認。そんなことをしていると、勤務があつという間に過ぎていきます。夜になつても、センサーが鳴り、また同じ部屋の患者がトイレに起きたすと、一緒にみんなトイレに行き始めるということもあります。

そのような忙しい状況で勤務していると、葛藤が出てきました。それは、ナースコールの多い患者の対応が多いことで、自分の受け持ち患者のケアが十分に行えない、しつかりとコミュニケーションととりにくいということです。どうしてもADLの自立している患者は、手がかからず、最小限の関わりとなつてしまいがちです。話をしたいと思つても、それが十分にできず、フラストレーションが貯まることもありました。そういう時は、忙しい中でも話をできる時間を作るように心がけ、スタッフに相談し、話をしたい時は、ナースコールの対応をお願いすることにしました。そうすることで、ゆつくりと患者さんと関わる時間を設けられるようになりました。

病院勤務も6年目になりました。リーダーやプリセプターなど経験させていただし、自分なりに少しも成長できているのかなと思えることもあります。大学時代に実習で経験した、患者者に対する関わりが、自分の中でそれがベースに残つていような気がします。一番に患者のことを考える。そして、忙しい勤務の中でも患者の苦痛を和らげること、最善の環境を作ることを考えながら、勤務するようになっています。

そして、自分自身も忙しい中でも、日々を楽しむことを忘れずに過ごしていきたいことが、働く中で重要なことだと思つています。(さとう ますみ)



↑遠くに富士山がみえます。今年の新年度の出です。



## 地域のプロを目指して



耶麻郡北塩原村役場 住民課健康づくり班  
5期生 古市 真理子

大学を卒業してから、早7年が過ぎようとしています。私は今、約3,200人が暮らす、裏磐梯がある自然豊かな北塩原村の役場で、保健師として働いています。卒業直後は、県外の総合病院で呼吸器科病棟の看護師として2年半勤務していました。そこでは、急性期の他、がん患者さんが多く入院されており、痛みや不安を和らげるために、寄り添うことの大切さや、家族との関わり、それを支えるチームの重要性など、看護師として、そして人間として、経験から多くのことを感じ、学ぶことができました。医療の場で、終末期の患者さんや家族にも、専門的に深く関わつていきたいという思いもありましたが、以前から「地域への関心が強かつた」ともあり、より身近で広く関わることで、現在の保健師の道へと進み、5年目を迎えました。

村での保健師の仕事は、母子から高齢者、健診や保健指導、健康教室、事務処理に至るまで、対象や業務内容も本当に幅広く、そこで暮らす住民の生活すべてに関わつていく必要があります。もともと地元ではなく土地勘も何もなかつたため、初めのうちは仕事内容はもちろん、地区の様子を覚えることでも必死でした。今でもまだまだ自分の知識や経験不足を感じることも多いですが、住民の方と直接関わる機会を持つことで、お互いを知り合うことができ、笑顔や嬉しい反応をもらえることで何よりも励まされ、やりがいを感じることができました。

地域には、ごく身近なはずの場所でも、気づかずにいること、知らずにいることが沢山あります。まずは経験してみること、そして広い視点で地域を良く知ること、それが今の私にとって一番の目標です。そこで暮らす人々の視点に立つて、頼れる地域のプロを目指して、保健師として一人の人間として成長して行けるようにこれからも頑張りたいと思います。

最後に、自らの学生時代を振り返り、大学では講義や実習で基礎を学ぶばかりでなく、サークル活動を通し、タイの人々との交流やマンマデーでの衛生教育など、代えがたい経験をすることができました。多くの貴重な経験ができる機会を与えてもらえたことに感謝しています。どうかこれから、学生の皆さんが、専門知識はもちろんのこと、自らの興味関心を深め、広い視野をもって活躍できるよう、様々な悩みを得ながら自ら選び、多くの経験が出来る、そんな学びの場であつて欲しいと願っています。(ふるいち まりこ)

## 卒業後の経験、大学生活を振り返って



横浜市神奈川福祉保健センター 福祉保健課  
6期生 松上 希美

大学を卒業してもう6年が経とうとしています。卒業後の経験や大学生活を振り返ると、授業や実習だけではない経験が今につながっていると思います。私は、卒業後、長野県にある佐久総合病院で看護師として3年間働きました。「農民とともに」をスローガンに地域に密着し、地域にとっては最後の砦の病院でした。看護師としては、忙しい業務のなか目の前のことに向き合うのに必死でしたが、3年間という短い期間のなかでも経験した異動は印象に残っています。最初に配属された内科病棟は生活習慣病の患者さんも多く、私はそこで経験を深めたいという思いがあり、1年半の異動ルールは自分のなかで消化できないものでした。しかし異動後、婦人科や耳鼻科手術の患者さんやターミナルの患者さんの看護など、新たな経験がありました。今では望まなかつた異動も自分の幅を広げてくれプラスになつたと思つています。

現在は、学生の時から希望していた保健師として、健康づくりと感染症対策を担当する部署で仕事をしています。保健師活動では、長年ホームレス生活をしていた方や在日外国人の方、仕事が忙しく健康の優先順位が低い方、地域のために尽力して下さる方など様々な人に出会います。この支援で本当によかつたのか、行政として行うべき事業は何か、どう支援すれば住民が動き出すのかなど、答えは全くジレンマの連続です。一方、いきいきと健康づくり活動を始める時など、住民から力をもらうことも多々あります。保健師として3年が終わろうとしている今は、事業や地域について把握できてきたなか、住民や関係機関と一緒に活動することをもつと実践していきたいと思つています。

今自分の大学生活を振り返ると、サークル活動を通して様々な人や国と出会い、看護にとらわれず視野を広く持てたことはよかつたと思います。看護職は、様々な人生と出会いますが、その人生を受け止めるには様々な人と出会つていくことが重要だと私は思うからです。また、看護師でも保健師でも職場内のコミュニケーションは仕事の基本であり、ジレンマを共有するなど自分を救ってくれるものもあります。コミュニケーション能力は、大学ではサークル活動等を通して強化できるもので、社会に出る前に身につけておくことが重要だと私は思います。働き始めると時間に追われてしましますが、何か学生だからできることがあると思つています。それを見つられたら、充実した大学生活となり、そこで経験したことは卒業後にも活かしてくると思つています。(まつがみ のぞみ)

平成24年度  
公開講座

「高齢者と  
アロマセラピー」

2012年10月13日(土) 於:郡山市



療養支援看護学部  
小平 廣子

平成24年度  
公開講座の概要



本年度は、「高齢者とアロマセラピー」と題して、十月十三日(土)に郡山市において開催しました。講師は本学部の療養支援看護学部門准教授の坂本祐子氏にお願いいたしました。

これまでは主に看護職者を対象に開催してきましたが、今回は介護職の方も含めて、県内の医療機関をはじめ、訪問看護ステーション、市町村、介護保険施設等、県内761の事業所にご案内を差し上げました。その結果、県内各地から八十二名の方に参加をいただきました。

講演は、アロマセラピーの概念をはじめ、精油の種類、薬理作用や作用機序、適応や禁忌、精油に関する法律、用いる際の注意点などを大変わかりやすく説明をしていただきました。また、坂本氏自身が高齢者に対して精油を用いて行った嚔下障害や誤嚥性肺炎の予防効果に関する研究成果の紹介、さらには今後の活用範囲や課題などについても指摘していただきました。参加者は盛んにメモを取るなど熱心に聞き入っており、アロマセラピーに対する参加者の興味・関心の高さが伺えました。

(おたいら ひるこ)

今回の光翔祭で



光翔祭実行委員2年  
佐々木 瑠鳴子

私は今回の光翔祭で、学木企画班の実行委員として準備や打ち合わせなどを手伝わせて頂きました。私が在学中に経験できる光翔祭は今回が初めて最後となるので、何か思い出を作りたいと思ったのがきっかけでした。実行委員としての活動は大

変なこともありましたが、学木班のチーフや先輩方、同学年のみんなのおかげでどれも楽しい思い出になりました。光翔祭当日は実家から祖母と叔母が遊びに来てくれました。学木班の他にも、様々な班の実行委員が光翔祭に向け一丸となって活動する姿を見ていたので、学内の装飾やステージ発表などを2人が楽しんでいる様子を見て、準備をしてくれた沢山の実行委員のおかげで素敵な光翔祭になったこと、そこに私が少しでも貢献できたことがとても嬉しく思えました。学木企画では、多くの皆さんに笑いと楽しい時間を提供できたのでよかったです。最初で最後の光翔祭は、素敵な出会いと楽しい思い出の残る最高の学祭になりました。

(ささき りなこ)

第5回 光翔祭  
2012年10月20日(土)・21日(日)



光翔祭を終えて



光翔祭実行委員2年  
平野 博士

4年に一度の一般公開で2日間に及ぶ光翔祭を終え感じた事は、単純に「疲れた」という事もありましたが、やはり「充実感」と「達成感」が大きかったです。

僕はライブ局と前夜祭班で企画に携わらせて頂いたのですが、自分自

身多くの部活やサークルに入ってその練習があったため中々仕事を行うことが出来ずに班の方々に迷惑を掛けてしまいました。ですが班の方々は大変に僕に対して「ありがとう」「頑張ろう！」など今まで自分達の方が頑張ってきたにも関わらず優しい言葉を掛けてくださいました。部活やサークルの発表、企画を一つ一つ終わらせる度に「辛かったけどやって良かった」と思えました。最後になりますが、やはり何事も一人では出来ず誰かに支えてもらうことで自分のやりたい事をやれ、何かを創っていただけるんだと言うことをしみじみと感じました。支えて下さった班員、友達、多くの方々への感謝の気持ちを送りたいと思いました。

(ひらの ひろし)

# 看護学部研究交流会

総合科学部門 中山 仁

12月19日、看護学部学術委員会(学術検討小委員会)主催による看護学部研究交流会を開催した。今回は、2件の発表をきっかけに参加者同士の活発な意見交換を促すことによって、それぞれの研究者の研究内容についての理解を深めると同時に、研究上有



益な情報を共有する機会を設けることをねらいとした。1件目は中山洋子教授、丸山育子助教による「看護実践能力による看護系大学卒業看護師の実践能力の発達過程の分析」の紹介で、科研費研究成果報告書や実際に使用した質問紙を提示しながら、看護実践能力の発達過程について解説していただいた。解説では、質問紙作成に際しての概念化の難しさ、時代背景の変化に合わせた尺度開発、プロジェクトを契機に促進される研究者個人の研究領域拡大や人脈拡大の効果など、研究のプロセスで生じた問題と成果についても具体的な話を聞くことができた。



果の活用などそれぞれの場面で生じる問題について、まずご自身の経験を交えて助言をいただき、これを

2件目は真壁玲子教授から「研究活動における困難—情報の共有—」と題して、研究プロセスの各段階で多くの研究者が直面する問題を提起していただいた。具体的には、研究計画書の作成段階における倫理審査日程の予測、質問紙郵送法によるデータ収集、縦断研究における研究協力者の維持・確保、まとめの段階における役割分担の調整、研究成

基に各教員が実践している解決方法についても話し合った。発表者による有益な情報とともに、研究の苦労や失敗談なども聞くことができ、多くの参加者にとって研究の実際を身近に感じるよい機会となった。今回は研究全般に関する交流会となったが、今後は個々の研究発表を通じた交流も推進していきたい。

(なかやま ひとし)

## 看護学部カレンダー

3月21日(木)

学位授与式

4月2日(火)

在学生オリエンテーション

(午前:新2年次生・新3年次生、午後:新4年生)

4月3日(水)

入学式

4月3日(水)~4月4日(木)

新入生オリエンテーション

6月18日(火)

開学記念日

7月6日(土)

(予定) オープンキャンパス

10月19日(土)

光が丘祭

## 編集後記

年末に学会や招待講演のため台湾とタイを訪れた。

台湾も1999年9月21日に中部山岳地で大地震にみまわれ大きな被害を被り、日本からも様々な援助を行ったが、東日本大震災(3・11大震災)の際には台湾の政府と住民の義援金が合わせて200億円を優に超え、被災者の大きな助けとなった。今回の震災で日本人が寄付した人口一人当たり義援金とほぼ同額の義援金を台湾の人たちが寄せてくれた計算である。

また、タイの学生達も数万円であるが義援金を寄せてくれた。私が本学に奉職以来、国際保健サークルのお世話をしてきたが、そのプロジェクトで日本に招聘したタイ・コンケン大学学生達の義援金である。僅か5万円、さりとて彼らにとっては50万円にも相当する金額であり、遠く離れた国への感謝の思いで一杯であった。この義援金にサークル融資の寄付金を足し、自転車10台を原発事故被災地の自治体にお送りし、保健師さんの公用車として活躍していた。

3・11がまたやってくる。あの日のことを思い出し、世界の絆に支えられて今の日本があることに感謝し、平和で安心な世界になることを切望する。(はやし まさゆき)

## 編集委員

- 林 正幸、川島 理恵
- 有永 洋子、根本 紀子
- 鈴木 学爾、濱尾 早苗
- 高瀬 佳苗、福島 直美
- 池田真由美、須藤 久実
- 本多たかし